



## 2009年のハイライト

# 宇根山天文台だより



昨年は、ガリレオが初めて望遠鏡を夜空に向けてから400年を記念した世界天文年。46年ぶりに国内で見ることができた皆既日食。約14年ぶりの土星の環の消失。開館20年目を迎えた宇根山天文台にとって、話題の多い2009年でした。

8月11日と9月4日に、土星の環の消失現象が起きました。宇根山天文台では春から初夏にかけて、だんだん細くなっていく環の様子を楽しむことができました。

10月3日の中秋の名月と12月24日のクリスマス観望会にあわせ、コンサートを開催しました。天文台というロマンティックな雰囲気の中でのコンサートは好評でした。

そして何といっても2009年のハイライトは、皆既日食でした。皆既帯へのツアー客の殺到、太陽メガネの品切れなどがニュースとなりました。国内の多くの地域が天候に恵まれない中、幸いにも宇根山天文台では、時々雲が出たものの、まずまずの観測日和で多くの人に日食を楽しんでもらえました。

宇根山天文台では、来年度も興味ある情報を機会あるごとに発信するとともに、楽しいイベントを企画して、皆さんをお待ちしています。

### 日食観望会に参加して

(広島市安佐南区 中学3年生)

7月22日、46年ぶりに日本で皆既日食が見られるという。三原市の宇根山天文台の日食観望会に参加した。8時半ごろ天文台に着くと、もう駐車場は満車、100人ほどの人が列を作っていた。(中略)

太陽メガネを借りて欠け始めを待つ。心配した太陽も出ている。9時40分ごろ、右上からだんだん欠け始めた。1時間もすると辺りがだんだん暗くなってくる。10時55分ごろから分読みが始まる。11時、約85%欠けた。何だか気温が下がったような気がした。歓声があがる。

太陽が元に戻るまで、用意された木もれ日実験装置を使って実験を試みる。丸、三角、四角の形に穴をあけた、厚紙やダンボールを通った太陽の光は、すべて三日月型に投影された。話には聞いていたが不思議だ。いろいろ工夫されていて面白かった。(中略)

約2時間40分の天体ショー、いい体験ができた。三原市の人は、近くに天文台があるのでいいなあと思っただ。次に日本で見られる皆既日食は、26年先の2035年9月2日で、北陸から関東にかけての地域で見られるそうだ。ぜひ行ってみたい。そして、ダイヤモンドリングを見たい。

## 今年注目される天文現象 (3月以降)

	観望の好期	観望のポイント
火星	3月・4月	今年1月28日、火星が地球に小接近しました。火星の北半球が地球の方向に向く3月・4月は、火星の北半球や北極冠の様子が観測できます。
土星	3月～5月	昨年、おなじみの環が消失して見えた土星。今年は今までの土星のイメージと違う串団子のような姿を楽しむことができます。
金星	7月～10月	7月・8月ごろ、日没後の西の空に火星、土星、金星が大集合します。金星の最大光度は9月24日(宵の明星)、12月4日(明けの明星)。この前後は、昼間でも肉眼で金星を見ることができるともかもしれません。
ペルセウス座流星群	8月12日・13日	今年は月明かりがなく条件は最高です。12日・13日の夜に、1時間に約100個の流星が期待できます。
木星	9月～11月	昨年7月、木星の南極地方に小天体の衝突痕と見られる暗斑が発見されました。今年は9月22日が衝(地球から見て木星が太陽と正反対の位置になる状態)で観望の好機です。
ふたご座流星群	12月14日	流星群の極大は14日20時ごろで、夜半以降は月明かりがなくなり、条件が最良となります。1時間に約50～100個の流星が期待できます。
皆既月食	12月21日	皆既月食の始まり16時40分、月の出16時55分、皆既月食の終わり17時53分、部分月食の終わり19時02分。今回は皆既月食が始まって月の出となる月出帯食です。東天の冬空の中、赤銅色の月を楽しむことができます。